

文理科学科通信

京都府立福知山高等学校

臨床心理学入門講座」に感動

「みらい学Ⅰ」の第二弾、臨床心理学入門講座」の特別講義がおこなわれました。

第二弾の取り組みは、六月十三日(水)

の京都大学大学院教育学研究科教授の藤原勝紀先生による特別講義「こころの働きと人間関係―臨床心理学への招待」でした。藤原先生は臨床心理学の権威ですが、文理科学科の生徒諸君には、「こころはどこにあるのか」など不思議で楽しくわかりやすい講義でした。生徒諸君は、このあと「知性と感情」



大が悩むとは、心をつかった人間関係、カウンセリングの効き目」等のテーマを選んで、グループで詳しく調べます。今回はその結果をポスターセッション方式で発表します。

生徒の声

何か、分かったような分らなかったような感じでした。「こころ」は主観的に見るときと、客観的に見るときでは範囲や場所が違うことや、感情だけ、知性だけでなく両方を上手に調整することが大切だということが分かりました。

南陵中学校出身)

正しいことが快いとは限らない。」という話が一番心に残りました。正しいと分かっているからこそ不快になるということとはよくあることです。心理学というもののはかなり身近にあると感じました。

白新中学校出身)

小学校のころから疑問に思っていた「こころはどこにあるのか」ということもなんとなくわかりました。しっかりと答えを返していただけた先生の存在をありがたく感じた講義でした。

綾部中学校出身)

心理学とはいろいろな感じ方、見え方をするものの研究で、目に見えないものは容易には理解できないものだと思います。

東綾中学校出身)

人のこころには知性からくる気持ちと、感情からくる気持ちと、それをまとめる気持ちとがあることがわかりました。内容としては難しかったけれども、なぜか楽しく聞くことができました。

三和中学校出身)

心理学は人間誰しもがもっている精神についての学問ということもあり、非常に人間味があふれた講義でした。人間は一人一人違うから心理学があり、それぞれ違った感情があるので、人間関係が研究されるのだと思いました。

桃映中学校出身)

自分という存在は外界からの知識とか多くのものを取り込んで形成されていると聞いて、なるほど」と思いました。大は環境によって変わる。」といわれているのはこのことで、だから人は多くの可能性をもっていることに気がきました。そして人間関係で大切なことは自分を知ってもらうことではなく、相手を理解することだと思いました。

六人部中学校出身)

授業の風景

文理科学科の「現代社会」の担当は村田正志先生です。

現代社会の学習は、単に教科書の内容を理解するだけではなく、実生活とリンクさせて学習した内容を活用することが大切。」と言っておられます。



京都府立福知山高等学校
〒620-0857 福知山市土師 650、tel.0773-27-2151
電子メール：fukuchiyama-hs@kyoto-be.ne.jp
ホームページ：<http://www.kyoto-be.ne.jp/fukuchiyama-hs/>